

山王商店街

～まちなかの賑わいつくりを目指す～



いま取り組んでいること、今後目指していること

鶴岡市の中心部に山王商店街があり、江戸時代から北前貿易の中継地として栄え、昭和50年代半ばまで賑わいを見せていた。しかし、最盛期には買い物や通勤客などで1日1万2千人にのぼった歩行者も日曜日は160人に落ち込むなど、車社会の到来とともにかつての活気を失っていった。こうした厳しい状況に立ち向かい、商店街の賑わいを取り戻すため平成6年から、5月～10月の毎月第3土曜日の7時～9時まで「山王ナイトバザール」を開催。商店街外部の人による屋台やフリーマーケット、産直市などを開催している。次第に市民の認知が高まり、平成10年に街路を通行止めにしてパークアンドバスライドの社会実験をおこなったり、平成16年よりは市民参加による踊り祭り「おひさま祭り」を同時開催するようになった。この踊り祭りには1万人を超える一大イベントとなり、平均でも6千人を集客する市民イベントに成長した。このイベントで培った認知度・集客力を活かし、普段から買い物客が訪れる商店街へと再生させるため、鶴岡市のまちづくりに関わってきた早稲田大学の佐藤滋教授や鶴岡市などの協力を得て、平成11年には「山王商店街の再生方針」を元に「まちづくり憲章」「まちづくり協定」を策定した。現在、この方針に基づき、空き地・空き店舗を活用した、地元産の新鮮な野菜などを品ぞろえする「山王マルシェ」や飲食店等の開設を進めるとともに、歩行者が利用しやすい街路の整備、店舗外観の統一にも取り組んでいる。更なる集客を目指し昨年の夏より毎週土曜日の昼にデイバザール開催し始めたところ市内外の骨董店や飲食店、他などの出店があり天気の良い日などは常連客が立ち寄ってもらえるようになっている。今後道路整備が終われば歩行者の増加にともない、山王デイバザールが街中再生の一つになるように目指している





山王ナイトバザール

平成6年に始めた山王ナイトバザールは、毎年5月から10月までの第三土曜日に開催しています。平成22年8月には、100回目を迎えました。空クジなしで百円玉のつかみ取りが当たるスタンプラリーやゲーム、フリーマーケットや一店一品セールなどで買い物を楽しんでもらうなど、楽しい企画がいっぱいで多くの市民でにぎわっています。



「山王デイバザール」は、平成22年8月からスタートしました。毎週土曜日11:00~15:00に鶴岡郵便局前で開催しています。このデイバザールで「山王通りを、単に車が通る道ではなく、市民のコミュニティーの場として復活させたい。その大きな目標に向け、一つのきっかけにした」という思いで開催しています。



地域住民の買い物の利便性向上などを狙いに、空き店舗を活用し生鮮野菜などを中心に販売する食料品店が「山王マルシェ」です。交通手段のない高齢者などから商店街に野菜や総菜、加工品などの食料品が1カ所でそろってほしいという要望が多かったことから、そのニーズに応えるとともに、にぎわいを創出して商店街の活性化につなげようと開設しました。

海坂の小祭りシリーズ

～鶴岡情緒あふれる祭りの創出～



活動にこめている想い

●小祭りの由来●

地域社会を支える力が衰退しつつある現代、それを再生する一つの切り口として「祭り」をとらえ等身大の市民が自らの意思で自らの為に参加するという願いを込めて「小祭り」としました。それはとりもなおさず、見る主体としての自分から、見られる客体としての自分を意識することではないでしょうか。

活動の歴史

●桜小祭り

このまつりは水辺の公園として整備された、規模の小さい第二公園と歴史的建造物を合わせ、ゾーンとして使用し、従来の花見に少し違った視点を組み込んでみました。

この重要なポイントが内川である。桜を愛で楽しむことには変わりはないものの、そこに桜から見られる自分、舟下りという普段見ることの出来ない視点からの新しい発見。そしてそれを川岸から見る人と見られる自分。演奏者やお茶の接待から、昔懐かしい屋台の売り手、裏方を含め、参加する全ての人々が主役です。自分が楽しみ人と人とのふれあいがさりげなく交叉する場になればと願っています。



活動拠点、活動エリア

●芭蕉小祭り

昔日、この鶴岡を訪れた芭蕉と時空を共にすることで新しい自分を見つけ、地域を見直す糸口になればとの思いで提案されました。ここでのポイントは重要文化財の丙申堂であり、又釈迦堂であるが、ここでも重要なポイントが内川。この場合の内川は往時芭蕉が酒田へ下った、交通の要路としての内川。舟下り、句会、茶席を通じ、建物の放つ歴史の気配を膚で感じながら人との絆を結べる自分を発見してもらえれば成功したと思っています。「月日は百代の過客にして…」の感覚は地域の人や旅人を含めて、地域全体に広がる客観、包容力でありたいと願っています。

●大黒様の御歳夜祭り

この祭りには「小」がついてないが考え方は同じです。大黒様の御歳夜とは「大黒様の嫁取」あるいは「大黒様の妻迎」とも称されている民間行事ですが、全国的にこれを行事として伝承している地域は非常に少ないと言われています。ましてや、大黒信仰との関連でどちらかと言えば商家の慣習とされる中であって、この地域の一般家庭までの広がりをもった子孫繁栄行事としてのそれは特異です。しかもそれを長い間、連綿として伝承継続して来たエネルギーは大きなものがあると考え、それを家庭の中から外へ放出できないかとの発想が原点でした。その始めとして大黒舞の奉納や門付、大黒様セット(まっか大根・ハタハタ田楽・豆料理等)の販売を通じて、家庭から外への視線を期待しつつ実施したものです。私たちが気軽に考えたセット販売でしたが、「こいで、今年も大黒はんさいるー。いがったごど」という言葉は高齢者世帯の増加という重い現実を私たちはあらためて突きつけられることとなりました。これが配達を積極的に受付けることとなった背景でもあります。



いま取り組んでいること、今後目指していること

三つの小祭りの基本は等身大の市民が自らの意思で参加し、自ら楽しむことで、その中から人と人との絆の結び会い、共助の大切さが思い出せればと思っています。その意味で背伸びをせず、沈潜の風と言われるものの底にある厚いマグマを期待しつつ、多くの人たちの手助けを積極的に得ながら息の長い活動を続けたいと思っています。「ありがとがんす」「もっけですのー」それぞれの地域の地の言葉が交わされる街は「たそがれ清兵衛」の山田監督をして製作を決心させた市民の有り様であり、それが鶴岡の風景、いや、佇みであろう。



私たちが頑張っています



海坂の小祭り実行委員会
鶴岡市山王町 9-29
電話 0235-25-6320

旅の家 皓鶴亭(こうかくてい)

～中期滞在住宅の取り組み～



活動にこめている想い

鶴岡を「ゆっくり」「のんびり」と楽しんでいただくための滞在型住宅（Sターン住宅）「旅の家・皓鶴亭（こうかくてい）」が05年1月、鶴岡市家中新町に整備されました。中心市街地で増加している空き家の活用策として、市民活動団体「鶴岡城下町トラスト」（堀井和彦理事長）が、民家を再利用して提供する短期・中期滞在者向けの宿泊施設です。

「皓鶴亭」は、鶴岡公園、致道博物館といった観光拠点にほど近い場所に位置し、鶴岡市出身の漢詩家・土屋竹雨の「故国山水」庄内賛歌『ふるさとを偲べる吾を背に乗せて 皓鶴 夢に 月山を飛ぶ』がその名の由来。昭和初期に建築された木造一部2階建ての民家で、滞在期間は3泊4日以上 1カ月以内（長期の場合は応相談）。1組様限定（1～5名様まで）のご利用となっています。自炊（炊飯器、電子レンジ等の設備あり）となりますが斡旋してもらえらるほか、旅館およびホテルとのパッケージもあります。ビジネス目的の方の宿泊は出来ません。

建物概要	昭和5年築の木造2階建住宅
利用条件	3泊4日以上（定員1～5人）
管理・運営	シニアボランティア
利用料金	3,500円/1人～8,000円/5人



活動の歴史

鶴岡市は、「歩いて暮らせるまちづくりモデル調査事業」(H13.3)の中で提案された①まちなか居住の実現と②福祉拠点の整備をテーマに「元気居住都心整備構想」(H17.3)を策定し、まちなか居住の一つのポイントとして短中期滞在施設を検討しました。

NPO 鶴岡城下町トラストは、H15年の行政と建築会の共同研究から始まり、社会実験等の事業プロセスの過程で中心商店街、不動産関係者、金融機関等の住いに関する専門家を集め組織化されました。(H17.4.1 法人登記)

- 平成 15 年
 - ・市内空き家実態調査
 - ・夏季 S ターン社会実験事業 (H&C 財団助成事業)
- 平成 16 年
 - ・「元気居住拠点ネットワーク形成調査」(短中期滞在施設実現のための法的課題を整理する調査)
(全国都市再生モデル調査事業採択)
- 平成 17 年
 - ・旅の家「皓鶴亭」供用開始
 - ・NPO 法人化



いま取り組んでいること、今後目指していること

皓鶴亭のリピーター率、利用目的からすると、当初目的の「市出身者の止り木の役割」は果たしている。

今までに、類似施設の開設希望者からの問合せが、県内外から数件届いています。しかし、旅館業法に該当するため、建築基準法の用途基準、防火基準、水質汚濁法等の様々な法的阻害要因から個人では実現していないようです。

また、中心市街地で運営する場合には、小規模な旅館・ホテル業と利用者のバッティングもあり、共存共栄のプログラムも必要とされています。

最後に、全国の各都市に類似施設が存在すれば、高齢化社会のマルチハビテーションのツールとしては、大いに有効と思う。私達は、皓鶴亭の運営プロセスをシステム化し、全国展開という果てしない夢を見ています。



特定非営利活動法人 鶴岡城下町トラスト
〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町15-41
電話：070-5471-8599 FAX:0235-25-1863
e-mail kobaecha@tsurutrust.org
URL http://www.tsurutrust.org

踊り祭りの復活

～おいやさ祭り 鶴岡盆の踊り祭り～

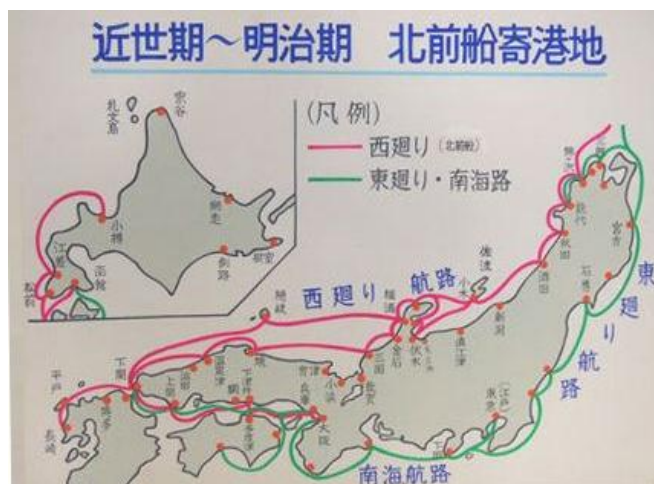


活動にこめている想い

街を元気にする。地域(商店街)を元気にする。人を元気にする。そんな合言葉で学習が始まりました。「必ず足元に宝はある」と力説する大学の先生。地元の郷土史家を尋ねる。あった。江戸時代から明治初期まで二百年間続いた「鶴ヶ岡盆の踊り」。江戸時代中期にもなると、江戸神田明神のお祭りに匹敵するほどの盛大なものであったといえます。これだ！しかし誰かが言う。派手な踊り文化を育む土地柄ではない。いつしか五穀豊穡に感謝する「百万石祭り」が消えた。皆が苦しい、笑顔を取り戻したい。農業を基幹産業とする我が街。今こそ農に感謝し、時代を繋ぐ子ども達に何かを伝えていかなければならない。

活動の歴史

北前船が運んできた庄内ハエヤ節。しかしながら、盆の踊りの資料はあっても音曲がない。今の時代に合う音源を思案していたときに、すでに中央公民館で「庄内ハエヤ鳴子踊り競演会」が開催され、子どものグループも組織されていました。ハエヤ節は陽気で、テンポもあり、歌詞(五穀豊穡を唄っている)もいい。このハエヤ節は、九州は長崎、平戸周辺で誕生し、西廻りの北前船で全国各地に入り、それぞれの土地柄でハエヤ節系として唄い踊られている。



鶴岡の港では、関所のあった鼠ヶ関港、城下の物資が運ばれてきた加茂港から、それぞれ山五十川のハイヤ節、鶴岡の庄内ハエヤ節として残っているが、なぜか、鶴岡の人達はこの民謡をあまり受け継いでこなかった。でも、鶴岡の盆の踊り祭りを復活させるには、この曲でいこう。全国でも有数の農の生産地。五穀豊穡を祈り、感謝の舞と盆に精霊を慰め、市民の踊り祭りとして、再復活を掲げた。踊り曲の誕生。今後の商店会の衰退を危惧する山王商店会の有志、この踊り祭りに賛同する市民。事務局を「公益のふるさと創り鶴岡」に置き、地元の音楽家、プロの音楽家、様々な思いをより合わせて、正調の民謡をアレンジして踊り曲とした。若者向けの「新庄内ハエヤ節」、伊藤多喜雄プロデュースの「庄内はえや」(ロックタキオ・バージョン)、盆踊り調の「踊り庄内はえや」、更には小湊美和のラップ入り「庄内ハエヤ節」と踊り手が選択できるように、多様なアレンジになった。時はよさこいブーム、若者たちは、演歌よりポップス。時代々々で変わっていくのもいい。でもいつか、そのまんまの正調「庄内ハエヤ節」で踊っていきたいという夢もある。



いま取り組んでいること、今後目指していること

商店街を会場に踊り祭りの誕生、そして継続。夜空に響くハエヤのメロディ。熱くこぶしを振りかざす若者たち、しっとりとした哀調おびて盆を舞うハエヤ踊り。祈念すべき、歴史の1ページ飾ったのは共に苦労した、山王バサール会場でもある山王商店街振興組合。平成17年10月「第一回おいやさ祭り」として産声を上げた。そして回を重ね、熱い思いは、よさこい系のハエヤ節と流し踊りのハエヤ節に分かれて行うこととした。銀座会場は8月15日と定め、鶴岡盆の踊り祭りとし、今年で第三回を迎える。山王ナイトバザール会場はおいやさ祭りとして7回目を迎える。それぞれが課題を抱えながらも遅しい。この踊り祭りは、それぞれのリーダー達にかかっている、時代を繋ぎ、心を繋ぎ、元気を繋ぎ市民と共に育まれる祭りにしていくために、事務局も努力を惜しまない。

私たちが頑張っています



鶴岡踊り祭実行委員会
鶴岡市山王町 9-29
電話 0235-25-6320

クオレハウス

～鶴岡「元気居住都心」～



活動にこめている想い

街には、「街なみ」「人なみ」「営み」が必要です。鶴岡の中心地である銀座に元気なお年よりの住まいをつくることは、高齢期の豊かな暮らしをサポートするとともに、銀座に「人なみ」と「営み」を取り戻すことにつながります。クオレの会は、こうした理念のもと、鶴岡市をはじめ銀座商店街振興組合、早稲田大学都市・地域研究所、荘内銀行など多くの方々のご支援をいただいて高齢期を元気に自立して生き生きと暮らすためのコーポラティブ方式による住宅づくりを推進しています。

「クオレ」とは、イタリア語で「こころ」「生命」「生活」を表すことばです。クオレの会が目指す住宅は、生活の質=Quality of Life を高める暮らしの場です。

「クオレの会」が推進するコーポラティブ住宅はお仕着せの分譲マンションではなく、入居者が事前に集まって計画づくりに参加してつくります。趣旨に賛同して集まった方々の協働作業により計画づくりや建物の設計を進めています。

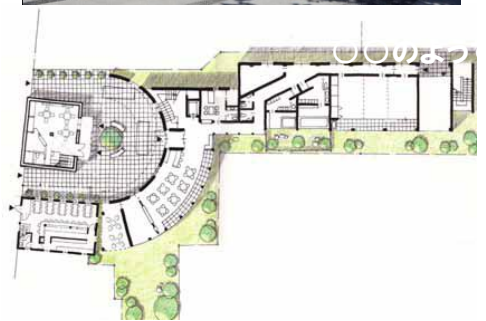


活動の歴史

- 平成 11 年 3 月 中心市街地活性化基本計画を策定
- 平成 12 年 3 月 「住み続けられるまち研究事業調査」鶴岡 TMO が早稲田大学都市・地域研究所に委託して実施
- 平成 13 年 3 月 「歩いて暮らせる街づくりモデル地区調査事業」を早稲田大学都市・地域研究所に委託して実施。
- 平成 13 年 6 月 市民、行政、大学が参加して「元気居住都心ワークショップ」がスタート以降、11 月までに計 5 回実施。
- 平成 13 年 11 月 「元気居住都心ワークショップと早稲田大学都市・地域研究所」の手により、「元気居住都心」の提言書がまとめられ、市長に提出される
- 平成 15 年 3 月 市が元気居住都心基本計画概要書をまとめる
- 平成 16 年 10 月 B 敷地「元気居住をつくろう会」スタート
- 平成 17 年 3 月 市が鶴岡「元気居住都心」調査研究報告書策定、元気居住シンポジウム開催
- 経済産業省「戦略的中心市街地商業等活性化支援事業」採択 (H20~22) 36,372 千円 (国 50% 事業者 50%) 5 月：着工
- 平成 21 年 2 月 蔵座敷改修完了 (戦略補助)
- 平成 21 年 3 月 クオレハウス竣工 4 月入居開始

クオレハウス5つの特徴

- 自立した暮らしのための「住まい」
子供の世話になりたくないけれど、一人では何かあった時に不安だとお考えの方の住まいです。
- ぴんぴんころりん「元気」が一番
元気で健康に暮らすためには、食事や適度な運動が大事です。
- 行き場所がある、会う人がいる、やることがある
蔵座敷でのコンサートや趣味の活動、食事や庭いじりなど、人とのふれあいを大事にした暮らしです。
- 住む立場から「こうだったらいいな」を実現
あらかじめ入居したい方を募集して、住む立場から希望を伺って設計・建設し、また、生活に必要なサービスも組み立てる、オーダーメイドの住まいづくりです。
- 地域とともに
食堂や多目的室、蔵座敷などの共用スペースは鶴岡銀座の居間として地域に開放します。また、地域に出て、地域の人とかかわることで入居者の暮らしも豊かになります。



私たちが頑張っています



代表社員 三井圭子

蔵座敷のスペースを
利用しませんか。
御相談下さい

合同会社クオレ
鶴岡市本町 1 丁目 4-37
0235-22-3811

とぼり広場コミュニティガーデン

～市民と協働して都市景観形成の環境整備活動を行う～



活動にこめている思い

コミュニティガーデンとは市民が主体となって、地域のために場所を選定し、造成から維持管理まで、すべての過程を自主的な活動によって支えている『緑の空間』を創出する活動を言います。

平成15年に完成した「とぼり広場」の花壇と、その西側に拡幅整備された幅員12メートルの県道「鶴岡～村上線」で鶴岡市の都市計画道路（道形～黄金線）の両側に設置してある花壇の維持管理に取り組みました。

この場所は新荘内病院の西側に位置し、道路に付属する歩道と車道の間にある花壇で、病院外構の植栽と、「とぼり堰」のせせらぎがある一画でもあり、比較的歩行者の往来が多いところでもあります。

また、一画の道路沿いにあるNTTの向かい側にある敷地に市の施設として、総合保健センター（通称「にこ♥ふる」）が三学区のコミュニティセンターを併設して新年度に整備されました。この施設の完成により、以前よりも多く市民の往来が期待される場所でもあります。NPO法人「公益のふるさと創り鶴岡」の中の「鶴岡コミュニティガーデン＝自分が代表」の活動として、地域の園芸クラブの皆さんと協働して数年前に活動を開始しました。



活動の内容

花壇は全長約 120 メートルで反対側にも点在しております。残念なことに花壇がある一面には民家がなく、地域住民と協働するという意味では住民が集まりにくい場所でもあります。また、広範囲にわたるため「花の苗」が、限られた予算内で全域に植栽できない事情があります。

初夏、手作業により春に咲いたチューリップの球根を撤去して、住民から耕運機を借りて土を耕し肥料を入れて苗床づくりをした後、夏から秋にかけて咲く花の苗を購入し、みんな額に汗しながら和気あいあいのなかで植え付けをしました。以後、苗はすくすくと育ち除草や水遣り等、みんなの心温まる作業に支えられ、車で走行するドライバーや歩道を行きかう市民の目をひきつけました。その後、花ガラを撤去し、再び耕運して来春に咲くチューリップの植え付けで今年度の作業は無事終了。

パートナーとしては、一昨年は「いなほ作業所」の皆さんと県立鶴岡北高校の生徒会執行部員。昨年は建築士会員の有志と「鶴岡高専ボランティアサークル」。本年度は、継続参加の「第三学区園芸クラブ」の皆さんと働きかけに賛同していただいた山形大学農学部の学生さん。みんなの協働で実施しました。



いま取り組んでいること、今後目指していること

財源は各方面に申請して認められた助成金を活用して、肥料や苗を購入して、みんなの協力のもと事業を遂行することが出来ました。お蔭様で地域「住民との協働活動」として所期の目的は達成できたと感じております。

以上のように、皆さんから協力していただき無事に事業が完結できたことの感激を皆さんと共に喜び、作業に携われた皆さんに感謝したいと思います。

これからも継続性を重視して、今まで培われた経験と反省点を生かし、「地域への奉仕活動」を通じて、地域住民との協働に支えられながら、自主的な活動によって私達がこの事業の目的とする都市景観の良好な環境づくりと『緑の空間』の創出のため、広く地域に根ざした鶴岡コミュニティガーデンをアピールすることを目指していきたいと思っております。



私たちが頑張っています



鶴岡コミュニティガーデン

鶴岡市山王町 9-29

電話&FAX0235-25-6320

鶴岡まちなかキネマ

～まちなかのオアシス空間～



活動にこめている想い

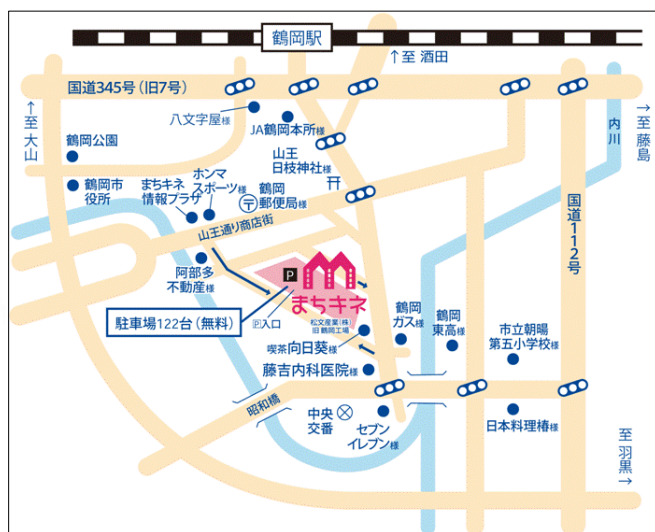
『鶴岡まちなかキネマ』通称(まちキネ)は、昨年5月鶴岡市山王町に開業した木造の映画館です。

まちキネは、鶴岡商工会議所が中心となって設立した『株式会社まちづくり鶴岡』が運営しています。

「映画」によって中心市街地に「新たな人の流れをつくり、賑わいを取り戻す」集客拠点施設となることを第一の目的とし、地元商店街と連携した多様な運営によって地域の活性化に繋げ、地方都市が抱える中心市街地の空洞化といった問題の解決を目指しています。



鶴岡まちなかキネマホームページより



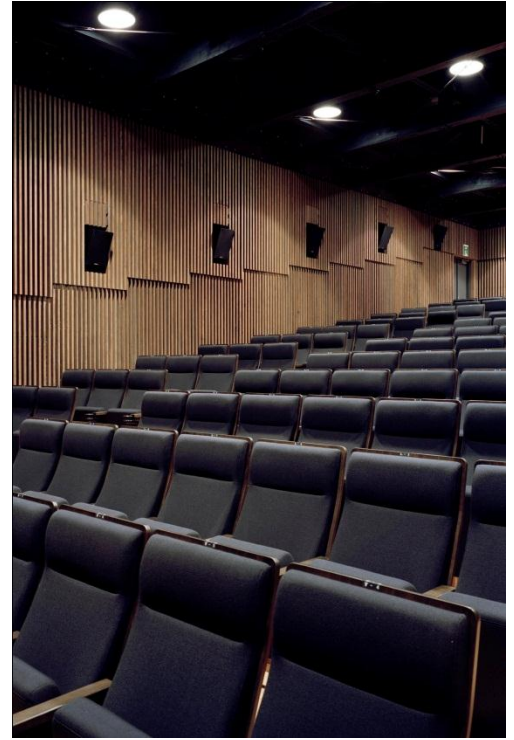
鶴岡まちなかキネマ

木造工場を生かした映画館

戦前の昭和初期に建設された絹織物工場、松文産業旧鶴岡工場跡地を最大限再生利用し、資源を有効活用することにより、産業廃棄物量の削減等、環境に配慮した施設です。

約3,100坪の敷地に、大きく分けて8棟あった工場の4棟を残し、その中でも一番古い木造平屋建ての建物2棟を、映画館に再生しています。

- ① 計437名収容の大小4つのスクリーン
キネマ1=165席、キネマ2=152席、キネマ3=80席、キネマ4=40席
- ② レストラン1店舗：平田牧場
- ③ 122台収容の駐車場：井戸散水消雪（再利用）



いま取り組んでいること、今後目指していること

事業は「鶴岡市中心市街地活性化基本計画」に、民間が行う基幹的事業として位置づけられ、経済産業省の「平成21年度戦略的中心市街地商業等活性化事業補助金」を得て、昨年整備が行われました。

集客拠点施設として、幅広い年代層が利用できる施設であり、近年の庄内の映画ブームによる身近さを合わせ持った「映画館」を設置することにより、市民や観光客がまちなかで楽しく過ごせる娯楽の場を提供でき、施設を活用した企画・イベント・駐車場の商店街イベント時の開放などを通じて、近接する商店街との交流と回遊性を高め、新たな販促活動や市民の購買意欲の向上といった、相互の波及効果を期待しています。映画から商店街の賑わいと活気を取り戻し、地域の活性化と魅力あるまちづくりを目指しています。

m まちキネ会員になろう! m

新規入会 キャンペーン中!!

「まちキネ倶楽部プレミアム」「まちキネ倶楽部」にご入会いただくと、まちキネ館内の売店にてご飲食にお楽しみいただける500円クーポン券をプレゼント!!

まちキネ倶楽部 おれあみ 10,000円 特典 映画 12枚プレゼント! 入会料 5,000円 10ポイントプレゼント! 新規入会料1,000円 ※ポイント付与は入会後1週間以内	まちキネ倶楽部 おれあみ 5,000円 特典 映画 5枚プレゼント! 入会料 2,000円 10ポイントプレゼント! 新規入会料1,000円 ※ポイント付与は入会後1週間以内	まちキネポイント 倶楽部 500円→無料! 販促ポイントを貯めて 映画招待券プレゼント 入会 10ポイントプレゼント! 新規入会料1,000円 ※ポイント付与は入会後1週間以内
---	---	---

※「まちキネ倶楽部プレミアム」「まちキネ倶楽部」には、まちキネポイント倶楽部のポイント機能が含まれています。
※ポイント付与は入会後1週間以内です。ご入金までお楽しみいただけます。

まちキネポイントの
貯め方講座
—映画とポイントの関係を
もっとよく知ろう—

映画ライブをさらにお得に!もっと楽しく!
ポイントカードでどんどんポイントをおためよう!

特典を1回使えるたびに、10ポイント進歩!
ポイントカードでどんどんポイントをおためよう!
60ポイントで映画招待券1枚進歩!

1回目
まちキネポイント倶楽部に
登録する
入会料 5,000円
特典 映画10枚
ポイント付与 100ポイント
ポイントゲット!

2回目
映画とライブで映画を観る
特典 映画の購入代
200ポイント
ポイントゲット!

3回目
映画を持って映画を観る
特典 映画の購入代
200ポイント
ポイントゲット!

3回で
60ポイント貯まったので
映画招待券1枚と交換!

m 鶴岡まちなかキネマ



鶴岡まちなかキネマ
鶴岡市山王町 13-36
0235-35-1228

鶴岡舟番所

～内川の再生と活用～



活動にこめている想い

市民主体で内川流域の環境保全および地域活性化を図るため、和舟を管理・運営する「鶴岡舟番所」を設立し、歴史的・文化的な資源の発掘と、地域のまちづくりに資する事業展開を図っております。内川流域の良好な環境を保全しながら和舟でのゴミ拾いや『海坂の小祭り』などのイベント開催を通じて、地域の子どもたちへの学習の場やいろいろな世代との交流を図りながら、地域ぐるみで子どもを育てていき、また、子どもたちだけでなく、地域住民が川の文化的価値を高め、市民みずからが川を保全し活用していくことを目指しております。

活動の歴史

平成21年4月まで「海坂の桜小祭り」などで使用していた舟ですが、個人所有のものを使用していました。しかし老朽化や使用日の制限もあるため、新たに舟を製作することにしました。

江戸時代、舟運の担い手は「小鵜飼船」と、それよりひと回り大きい平たい舟でした。最上川を往来した小鵜飼船と呼ばれる帆掛け船を建造したことのある県内で唯一の船大工である方より製作して頂きました。

この和舟は、鶴岡市の温海杉を使用し、平成21年5月に完成。11月に進水式を行い、安全な運行と事業の発展を祈願しました。これまでの舟よりも安定しており、ゆったりとした気分で乗船することができます。



活動の内容

平成 21 年度より 2 年間、山形県子育て創成基金の助成を受け、「内川探索親子ふれあい事業」を展開しました。内川の歴史や橋の学習会や親子ふれあい舟下り、ごみ拾い、水質調査、さかなしめなど、約 1,000 名の方たちに参加頂きました。

親子ふれあい舟下りでは、ゆったりとした気分になり、また普段の視点とは違い、今まで見たことのない新鮮な景観を眺めることができ、親子交流の場として好評をいただいています。

また、河川環境問題にも取り組み、水質調査やごみ拾いを行い、汚れていると言われ続けた内川の実情を把握してもらい、「どうやったら川がきれいになるか」「どうすれば川を汚さないようにできるのか」を体験学習にも力を入れています。そんな中、8 月に「さかなしめ」を行った際、近い将来絶滅する危険性の高い「絶滅危惧 IB 類」に分類されている「ホトケドジョウ」を発見し、河川環境保全の大切さを広くアピールしています。

更に、歴史的・文化的な資源の発掘と、地域のまちづくりを行うため、海坂の桜小祭りなど情緒あるれる景観形成も行ない、観光客や市民からも注目され始めています。



いま取り組んでいること、今後目指していること

内川は、都市化の進行に伴い水質の悪化や流量の減少で、一部ではヘドロ臭など悪臭がしていたと言われていました。絶滅危惧種の魚が発見されているにも関わらず、依然として「内川は汚れている川」というイメージが根強く残っているため、ゴミが散乱しており、貴重な生物にも悪影響を及ぼしかねません。多くの地域のみなさんから内川を知っていただき、河川環境の保全の大切さを学習していただきたいと思えます。

また、大学や高専、地域住民や子どもたちなどを巻き込んで、水質調査や生物調査、希少生物や水生生物を内川に呼び戻すため、魚卵床の設置を考えています。



鶴岡舟番所

鶴岡市山王町 9-29

電話 0235-25-6320

だがしや楽校

～なぜ全国に広がったのか～



山王ナイトバザールでのだがしや楽校のようす

活動にこめている想い

- 地域の人たちが歩いて買い物ができるには身近なところに商店街があることです。また、商店街とは買い物をするだけでなく、お店の人とお客さんである地域の人、あるいは地域の人同士が顔を見せ合いながら語り合うコミュニケーションの場であり、人と人がつながる大切なコミュニティ形成の場でもあります。
- 山王ナイトバザールで「だがしや楽校」を開いているのができる山王商店街です。子どもたちから高齢者の方たちまで世代を越えたコミュニケーションの場を開くことで、歩いて暮らせるまちづくりに少しでもお役に立てればという思いと、市民同士が互いに顔の見えるコミュニティづくりを目指しているからです。
- 「だがしや楽校」では、学生と子どもたち、高齢者と子どもたちと言った現代社会では難しくなったと言われる世代を越えた触れ合う風景をみることが出来ます。また、子どもたちの自由な発想を大切に、子どもたちの持っている創意工夫の力をさらに引き出すことができます。また大人はそんな子どもたちから学ぶことができます。こうした「だがしや楽校」の魅力が山形、そして鶴岡から全国に伝わり、全国各地で様々な形で開かれています。



活動拠点、活動エリア

活動の歴史

- 山王ナイトバザールで「だがしや楽校」を初めて開いたのは2004年です。それ以来、山王ナイトバザールでは欠かすことなく開いてきました。その結果、地域の人たちにも「だがしや楽校」の楽しさ・魅力が浸透しました。また、子どもたちにとっては、普段の生活では触れ合いことができない大学生のお兄さん・お姉さんと一緒に遊ぶことができ、子どもたちにも広まりました
- 山形県生涯学習センターが主催する山形学地域連携講座では、私たちが実際の主催者として、2007年から3年間にわたり「だがしや楽校」をテーマに講座を開きました。この講座で「だがしや楽校」が社会教育・生涯学習としても注目されるきっかけとなりました。また、神奈川県からの受講者もあり、本講座を開いたことも全国に広まった背景のひとつです。
- 2008年には山王商店街の一角にある空き店舗を活用し、毎週1回店舗形式の「だがしや楽校」を開きました。これこそが、歩いて暮らせるまちづくりの中の「だがしや楽校」と言えます。



いま取り組んでいること、今後目指していること

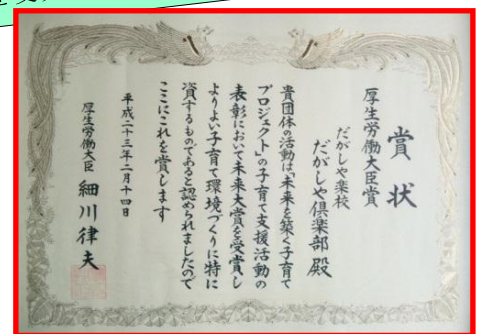
- 山王ナイトバザールで開いているほか、鶴岡こどもまつりやつるおか環境フェアで毎年のように開いています。また、地域の人たちが集う各種イベントへも出向き、地域の人たちにとって、出会いや触れ合いの場をつくっています。
- 最近、「だがしや楽校」が全国的に高く評価されてきたこともあり、山形県内のみならず全国各地で開かれたり、講演やレクチャーを行い、普及活動にも努めております。また、全国各地で開かれている「だがしや楽校」取材し、情報の発信をすることで、だがしや楽校全国ネットワークの構築にも力を注いでおります。
- これらの活動は山形・鶴岡を中心として「だがしや楽校」が全国に広まったからできることなのです。



祝！厚生労働大臣賞・未来大賞受賞

平成23年2月14日 住友生命「未来を築く子育てプロジェクト」子育て支援活動部門において最高賞である厚生労働大臣賞・未来大賞を受賞しました。

私たち、頑張っています



だがしや楽校だがしや倶楽部
鶴岡市山王町 9-29
電話 0235-25-6320